

くまもとのタネと食を守る会 会報

熊本市北区植木町今藤 1140-1 Tel : 090-6426-3604 Fax : 096-273-1917 save.seedfoodkuma@gmail.com

2019年、県の種子条例制定を求めた請願運動から始まった「くまもとのタネと食を守る会」の活動も、4年目を迎えます。

その活動は種苗法の問題、在来種・固定種の問題、農業の問題、ゲノム編集の問題と多岐にわたってきています。しかし、どの問題も根っこにあるものは同じ。食の安全や農業・食料自給を犠牲にした貿易自由化と、それを展開する世界的な多国籍企業の食の独占です。

私たちは個々の活動を進めていく時、常にその原点に戻りながら、地球環境の中で生かされる持続可能な農業と、安心安全な食を求める活動を、諦めることなく、多様な広がりを目指して進めていきたいと思います。

小農の権利宣言に感動!
2018年に国連で採択された「小農と農村で働く人々に関する権利国連宣言」をご存知でしょうか? 多国籍企業の独占に何をすべきか、各論で振り回される私達に、それは「人権」の問題であるとして、多国籍企業が進めるグローバルイズムと対抗しうる画期的な視点を提示しています。

その始まりが、2009年の国連人権理事会における「食糧への権利」の決議です。

「食糧への権利」とは、心も身体も健康に生きていくために必要な食料を自らの手で得られる権利のことです、もっとも基本的な権利のひとつ

となり。人権は知的所有権より上位の権利である」として、「農民の種の権利」が認められました。

日本ではこの国際法に逆行するかのようになり、種の特許が種苗法改正で強化され、在来種・固定種に対する農民の権利が脅かされています。

食糧安全保障は国の基本「飢えさせてはいけない」

現在、ロシアvsウクライナ戦争が勃発したこと、世界中が食料争奪戦に動き、国内の食料が不足しかねない状況となっています。

カリリーベースの自給率は2020年で37%というの有名な話ですが、農産物の基礎であるタネの自給率は10%、化学肥料はほぼ100%輸入、畜産の飼料(主にとうもろこし)の自給率はほぼ0%、鶏のヒナまでも輸入が大半という実情を、誰が知っているのでしょうか?

種や飼料の海外依存率まで視野に入れた本当の自給率を知れば、日本

こんな感じで
やっています!

2023年度のくまたね

の食料安全保障がいかに脆弱なものであるか、恐ろしくなるほどです。もはや、日本における「食糧への権利」は、侵害されています。

これらのことを今年度は、鈴木宣弘氏を招いて学びましょう。

タネの本来の生命力を知り、在来種・固定種の輪を

各地で有機農業関係団体が長きにわたって開催してきた種苗交換会。熊本においても、くまたねの参加団体である「たねと未来くまも」とによって20年以上おこなわれてきています。

種採りは、不思議な魅力のある作業で、最近では農業者を超えて、家庭菜園を営む消費者にも広がっています。

また、人類よりも長く、あらゆる地に適応し、地球で生きながらえてきたタネが持つ多様性と生命力の面白さを知ることが、人が在来種、固定種を採取してきたのではなく、タネに導かれてきたことに気づかされるものです。

今年度は、飲料水に含まれるネオニコチノイドと窒素肥料の成分硝酸態窒素を、年間を通じて検査をする予定です。

人間の尿からネオニコチノイドが検出されることは2022年のデトックスプロジェクトで明らかにしてきましたが、飲料水の検査に踏み込むのは今年が初めてです。

- くまたね 2023 スケジュール**
- 7月22日(土) 夏季種苗交換会 **P2** 長野克也先生講演会
 - 8月20日(日) 親子で学ぶ!オーガニック♡
 - 9月(日付未定) 親子で学ぶ!オーガニック♡
 - 9月9日(土) **P3** 鈴木宣弘先生講演会
 - 10月(日付未定) 親子で学ぶ!オーガニック♡
 - 11月(日付未定) 親子で学ぶ!オーガニック♡
 - 2024.2月(日付未定) 水の調査報告会

農薬 についてのプロジェクト

水の調査

水の“採水”&分析依頼実施中!

アクト・ピヨンド・トラストの助成を受け、今年はいくまたね初の『飲料水の検査』に取り組み始めました。

八代市内2カ所で採水を行い、ネオニコの分析を東京大学大学院教授の山室真澄先生に依頼。窒素肥料の成分である硝酸態窒素の分析を農民連に依頼。ネオニコ用の採水は、1リットルのボトルを用意し、採水した後、光を通さないように、すぐにアルミ箔で覆います。

硝酸態窒素用の採水は500ミリリットルのボトルを使用。採水したボトルはすぐに各分析機関に送付するという手順。

採水第1回目は5月8日(月)に行い、あと7月・9月・11月・1月と、年間通し計5回の検査です。

今回の水の調査では、おそらく行政でもつかむことの出来ないような分析結果が期待され、将来のためにどのような取り組みが必要であるのか問題提起を投げかけられるような、大変貴重なデータになるのではと思います。

勉強会と検査分析結果の報告会を開催予定

●勉強会
水調査に協力いただく中地重晴氏(熊本学園大学社会福祉学部教授・水俣学研究センター長)・山室真澄氏(東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)、そして、アクト事業スタッフでもある間澄子氏から、水環境についてのレクチャーを受け、水の調査活動をより的確な内容にしていきます。

●報告会
八代の井戸水・上水道の調査分析・評価(速報)と、調査活動実施概要を元に、2024年2月に報告会を開催予定です。くまたねHPや会員へのメール配信、SNSでの告知等でご案内します。

カエルくん動画を見るイベント 親子で学ぶ!オーガニック♡ はじまりますよ〜♪

昨年度のデトックスイベントと同時に制作した、カエルくんとうしぐんの動画。

専門家の先生方へカエルくんが質問をして、私たちに分かりやすいように説明をしてもらう、というものです。

カエルくんたちのマジックで、まるで先生方が子どもたちに接するように、分かりやすく教えてくださいました!

とても好評だったので、「見る会」を開催しよう!という運びになり、『Mama Angel*s』、『^{ママエンジェル}農歩屋』、『有機生活』、『万葉村』、でそれぞれ開催を検討中です。

8月、9月、10月、11月の計4回、開催場所を変えながら、それぞれ特徴のあるイベントができればと考えています。

そして今回はなんと!! 参加者の中から抽選で約10名に、農薬の体内残留値を調べる尿検査を無料で実施☆ このチャンスに、自分や大切な人の身体のことを考えてみませんか?

農薬に関連するお話や、次世代農薬のことなど、参加したみなでざっくばらんに話してみませんか?

詳細はくまたねメールにてお知らせいたします。ぜひ、足をお運びくださいね♡

Youtube 見てケロ!




第4回 国の「あどりの食糧戦略」で開発されるらしいRNA農薬ってなんだ? ジャーナリストさんに聞いてみた!ケロ!
【前編】

#カエルくんもわかる 農業の話

自分の足元で頑張っています!

菊池市の学校給食を考える会
5月14日に、菊池市の学校給食を考える会と菊池管内環境活動協議会が共催して、「〜食と健康と環境を考える集い〜」をキクロスで開催しました。

第一部では食を通して生き方が変わった実体験の話、第二部では映画「希望の給食」を上映。質問タイムでは率直な疑問が挙がり、意見のやりとりをしながら想いをつなげることができました。

熊本・有機の学校給食を考える会(仮称)
熊本市で有機・オーガニックの学校給食に関心を持つ子育て世代が中心となり、何かしたいけど一人で悩んでいる人と出会いたい、もっと関心を持つ人を増やしたいと思い、気軽に話せる茶話会など企画します。今後、案内を見かけたら、是非ご参加ください。

7月22日(土)開催

「今、たねとりがアツい！」 タネのスペシャリスト・長野先生の講演と夏の種苗交換会

ウクライナでの戦争で、凶らずも、我が国の食の基盤がいかにもろいものであるか明らかになりました。そうであるならば、その解決の方向性はどのような物であるべきか。「食料自給力を高めることこそが大切であり、それに資するような農業力をつけること」誰が考えても分らないのは何故でしょうか。ちよつと立ち止まって考えてみませんか。

私たちの知らない、種にまつわる驚きの話題がいっぱいの長野先生のお話は、時間を忘れるほど引き込まれます。そして改めて、命のもとである種の力の奥深さに気がかされるのです。

巨大企業が命のものを握る世界？

一方、ウクライナの戦争で明らかになってきているのは、食料にまつわる危機の発現は決して一様に起こるのではなく、強者と弱者に分かれ、弱者に集中的に降りかかってくるという言葉です。国連事務総長の心配する通りです。

種のこと引きつけてみるならば、F1、遺伝子組み換え、ゲノム編集種など

9月9日(土)開催

鈴木宣弘先生の講演会 開催決定！

常に刺激的に日本の農政や背景の国際関係を語る鈴木宣弘氏には、是非、くまたねでもお話を聞きたいと計画、9月に開催が決定しました！

種苗法 改定しても、何も影響ないと言ったくせに!?

熊本県が育成者権をもつ登録品種9品目27品種のうち5品目19品種については、自家増殖を行う可能性があるので、以下のとおり許諾が必要となりました。

- イチゴ、水稲については、自家増殖を認めません。ただし、災害等により種苗が不足するなど、自家増殖が必要な場合は、熊本県に申請書を提出していただき許諾を受ければ可能となります。
- カンキツ、カラー、茶については、自家増殖を認めます。自家増殖を行う場合は、熊本県に届出書を提出してください。

詳しくは・・・

国の品種など、民間への提供が進んじやってる！

あの人気の「紅はるか」も「あまおう」も

農水省は国の品種は1980件、都道府県の品種は420件が既に民間に提供されたことを明らかにしました。

そのうち、福岡県が開発したイチゴ「あまおう」の育種知見が既に民間提供されています。

農研機構が育種した品種で甘くて人気のあるサツマイモ「紅はるか」の育成者権利の専用利用権も種苗会社に提供されたもようです。

自家増殖の権利を条例で保護を!!

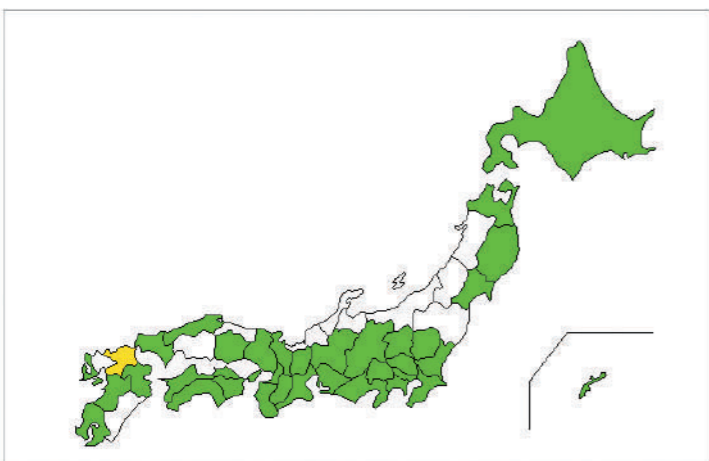
農家は、登録品種の自家採種(増殖)を続けています。現在暫定措置として県の決定で許諾手続きも許諾料もいらぬとしているものを条例にして、農民の法律上の恒久的な権利とする必要があるのではないのでしょうか。

ゲノム編集トマト苗

提出自治体数1293 回答自治体数793 受け取らない324 受け取る0。

パイオニアエコサイエンス社が、ゲノム編集トマト「シシリアンルーージュハイギャバ」の種苗を、福祉施設や小学校へ無償配布する計画を発表したことに対して、2022年2月にくまたねは熊本県内の45市町村に対して、「受けとらないで欲しい」という要望書を届けました。現在、その運動は全国に広がっています。

緑色が市町村に提出し、回答をいただいている県です。黄色は提出中。



OKシードプロジェクトのHPより(2023年5月末)

くまたね + たねみら主催 2023年夏季種苗交換会

「今、たねとりがアツい」

日時 7月22日(土) 14:00 ~ 17:00

会場 大江コミュニティセンター
熊本市中央区大江5丁目12-8

共催 くまもとのタネと食を守る会 & たねと未来くまもと

資料代 800円

スケジュール

13:30 会場にて受付開始

14:00 スタート

14:05 **長野克也先生講演会**

「今アツいたねの話
—昨年大好評だった長野先生に聞く、続編—」

15:05 質疑応答

15:30 タネの交換会

タネの交換会の一環として、まずお話し頂く。

- ・ 小山敬晴 (大分大学大学経済学部)
- ・ 深瀬雅子 (農園ととて)

大分の地域に根差した種の交流会の実践報告を頂く。

16:00 タネの交換会

交換会と同時開催 ワークショップ

大根のさやが付いた枝など持ち寄れたものを使い、会場内の別区画で実施。

16:50 締めの挨拶

17:00 終了

申込先

save.seedfoodkuma@gmail.com
または Fax: 096-273-1917



につれ、種の集中と独占が進むことは、地域性に根ざした多様な種が、失われていくことを意味します。つまり独立性を持った食の文化が消えていくことで、命のもとを巨大企業に握られた、広範な弱者へと編み込まれていくことを意味するのです。

「そうはならないぞ」ということに目覚めた人たちが、あちこちで出てきた「種」の問題を通して、今まで種のことなど気にしていなかった消費者の中に、「ホントはタネって大事なことなんじゃ？」という思いが芽生え始めたのは画期的なことです。

できた種苗交換会に新たな息吹が吹き込まれようとしています。大分ではじまったローカルで定期的なタネの交換会は注目に値します。その報告を聞きながら、自慢の種を持ち寄って楽しい交流をしましょう。



珍しいタネ
おもしろいタネが
いっぱい!



鈴木宣弘氏プロフィール
東京大学大学院農学生命科学研究科教授。専門は農業経済学。
農林水産省、九州大学大学院教授を経て2006年より現職。著書に『農業消滅』(平凡社)など多数が重版されている。
全国オーガニックフォーラムでも解決のロードマップを示す
「なぜ日本は、不測の事態に国民の命を

守れないほど食料自給率の低い国になってしまったのか」と全国オーガニック給食フォーラムで『子供たちの未来を守る』と題して解決へのロードマップを示し、「有機給食にするには上乗せが必要だが、国の財源で、今の安すぎる全国の小中学校給食を全て無償化したとしても、5千億円弱でできる。加えて、資材価格暴騰で困窮している農家への支援が急務であり、国民と政府の役割

を明記した「食料安全保障推進法を早急に制定し、国民の命を守る安全保障政策を抜本的に再構築すべきではないか。」と明快に語った。
食料生産の危機的状況を前に、日本の食の崩壊を止める政策提言を関係者・消費者に伝えるため、大学での研究・著述・教職の合間を縫い、全国各地を飛び回って講演活動を多数行われている。